



[HOME](#) [仏教](#) [仏像](#) [名所旧跡](#) [スナップ](#) [グロマコン](#) [経営コンサルタント](#)

【カシャリ！ ひとり旅】

東京北区石神井川沿いのウォーキング 4

東京都北区王子 王子神社

JTBパブリッシング社の「東京自然を楽しむウォーキング」を参照して、2021年3月に、北区のJR王子駅から、板橋区の都営三田線・板橋区役所前駅までの約6kmを、桜をモチーフに楽しみました。

東京都北区

<http://www.city.kita.tokyo.jp/>

区のサイトによりますと北区は、下記のように紹介されています。

北区は、江戸時代から飛鳥山の桜、石神川||の滝や紅葉といった四季の変化を楽しむことができる行楽地として知られていました。現在も、これらの自然をはじめ、荒川や石神井川などの4つの河川に恵まれた緑あふれるうるおいのまちです。

JRや地下鉄、都電などが区内を走り、商店街がにぎわう便利で活気のあるまちでもあります。

令和6年には、近代日本経済の礎を築いた渋沢栄一が新一万円札の顔として登場。渋沢は、61歳から亡くなる91歳までの30年間、飛鳥山の一角を本邸として過ごし、その邸宅の一部も残り、また渋沢資料館として一般公開もされています。

北区基本構想では、将来像として、「ともに作り未来につなぐときめきのまち ～ 人と水とみどりの美しいふるさと北区」を掲げ、その実現に向けて努力しています。



面積	20.61km ²
総人口	353,431人（推計人口、2021年2月1日）
人口密度	17,149人/km ²
区の木	サクラ（1972年12月25日制定）
区の花	ツツジ（1972年12月25日制定）

■ 音無親水公園

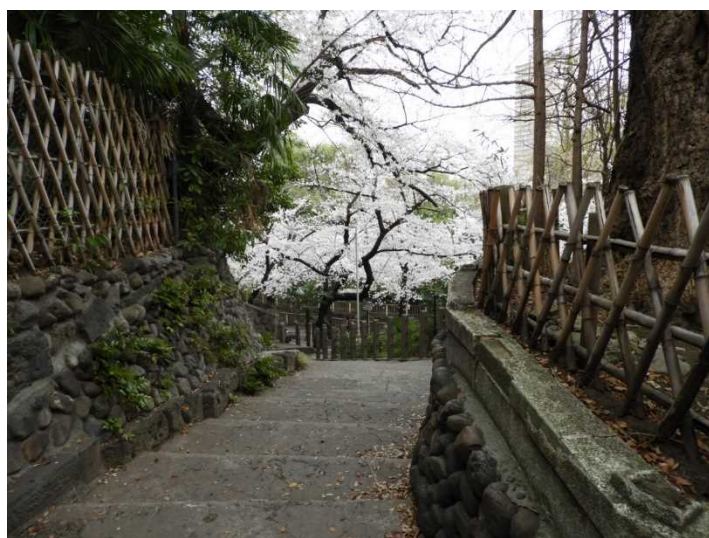
<https://www.city.kita.tokyo.jp/d-douro/bunka/koenichiran/otonashishinsui.html>

王子神社下を流れる石神井川は、この付近では、特に「音無川」と呼ばれています。ＪＲ王寺駅北口の方から行きますと、徒歩で３分ほどでたどり着けます。

音無親水公園は、小平市の東部を源にして隅田川に注ぐ石神井川の旧流路に整備された公園です。石神井川は、北区付近では“音無川”と呼ばれ親しまれ、古くからの春の桜・夏の青楓と滝あび・秋の紅葉など四季の行楽の名所、景勝の地でした。

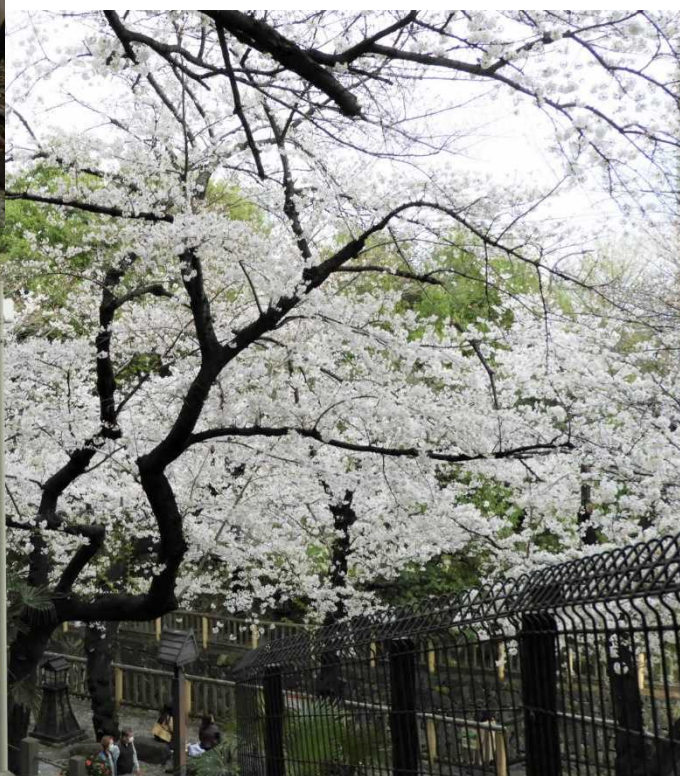
しかしながら、戦後の経済の復興・発展とともに石神井川も生活排水などで汚れた川となり、洪水による被害を防ぐ目的で、昭和３０年代から始まった改修工事によって緑の岸边は厚いコンクリートの下へと消え、典型的な都市河川となりました。この改修工事で、飛鳥山公園の下に２本のトンネルを掘り、石神井川流路のショートカットが行われ、残された旧流路に、「かつての溪流を取り戻したい」として音無親水公園ができました。

音無親水公園は、全国の都市公園の模範たる公園として“日本の都市公園１００選”に選ばれています。都内では、国営昭和記念公園、日比谷公園、上野公園、水元公園、代々木公園が選ばれており、園内には記念碑があります。



右手に王子神社の大銀杏が見えます。

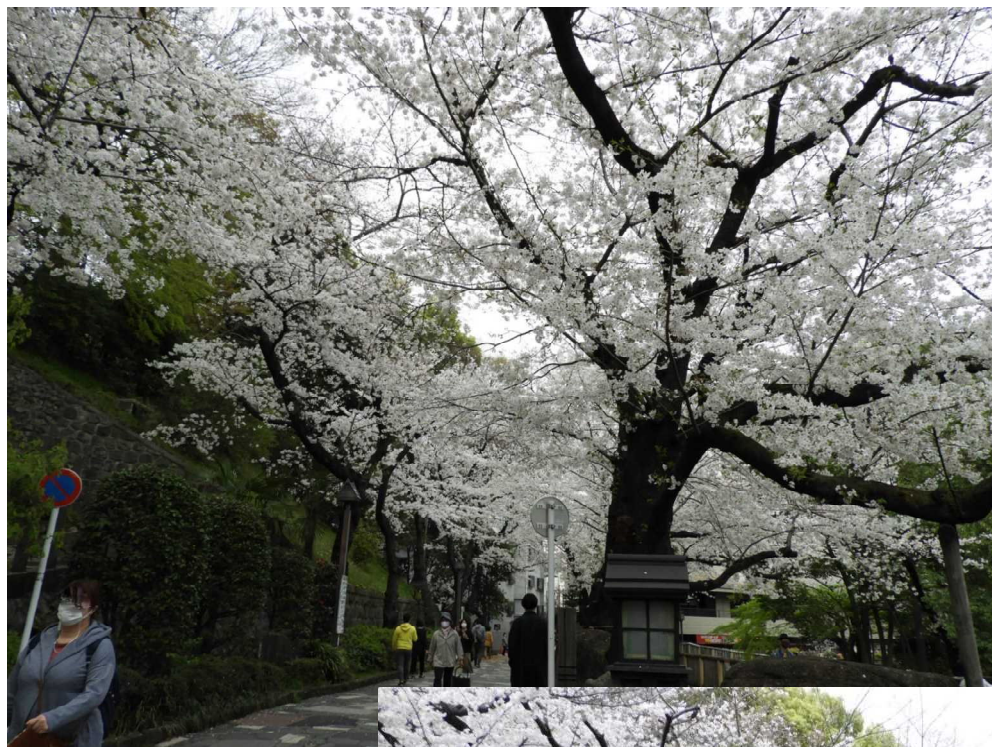
その横を降りてゆきますと、音無親水公園につきあたります。



大銀杏の横を降りてゆきますと、花見におとずれた人達が、そぞろ歩きをしていました。

左手奥がＪＲ王子駅北口方面です。

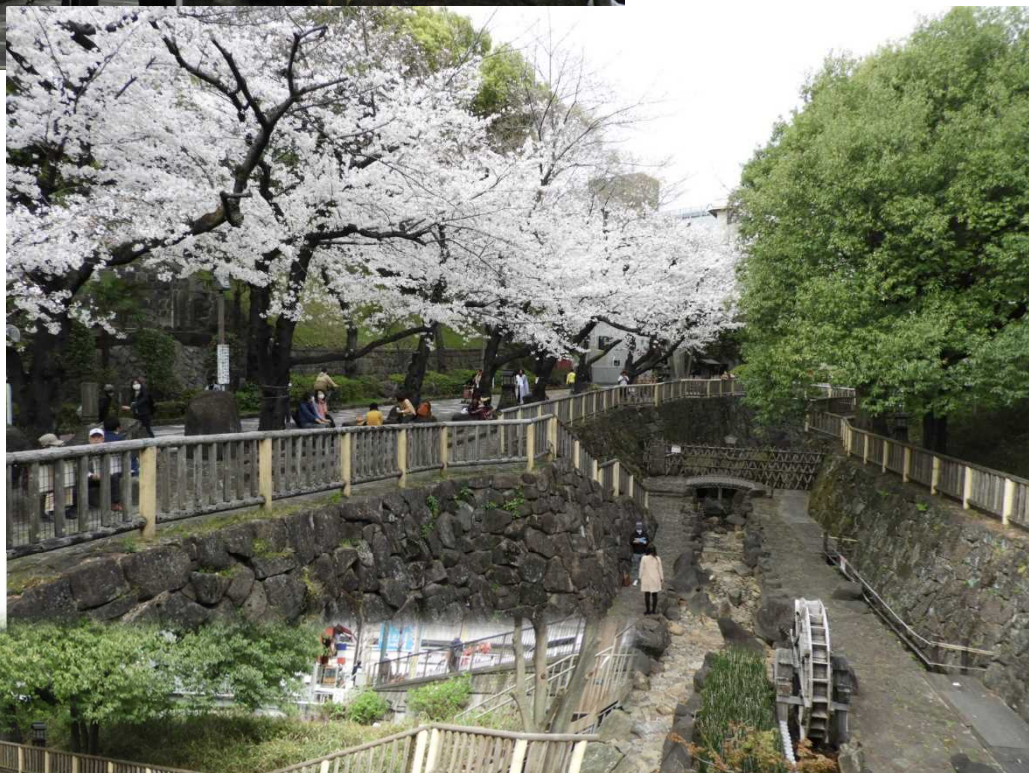




左手の高台に王子神社があります。

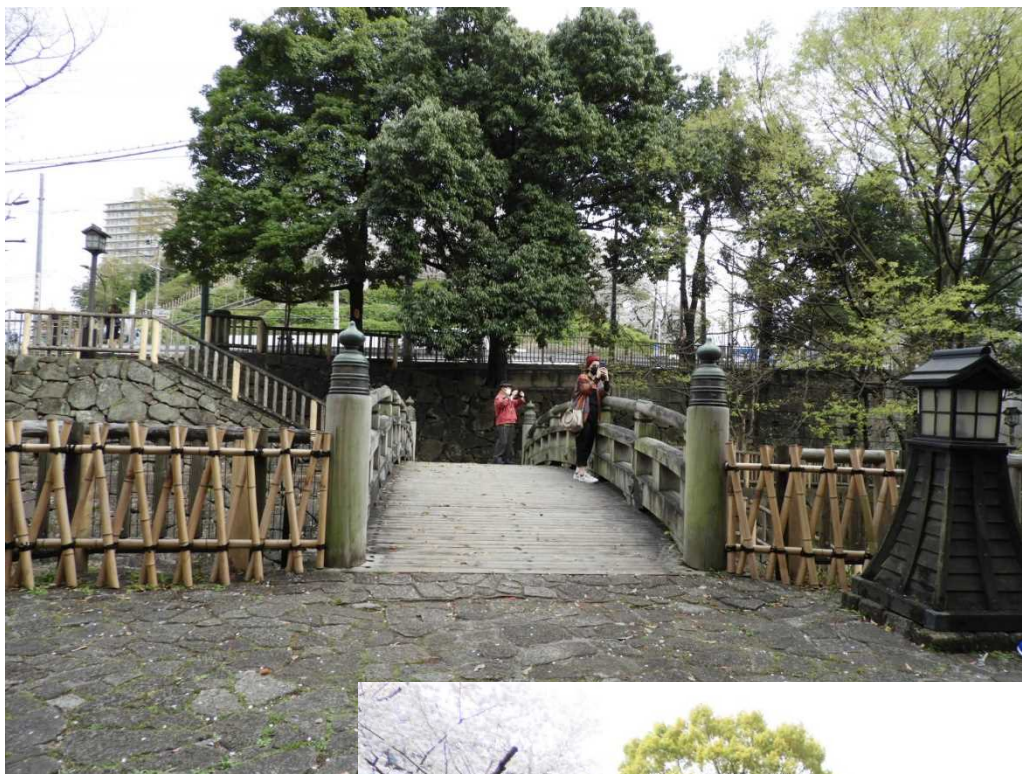
桜トンネルの奥がＪＲ王子駅です。

右手下が音無川（石神井川）です。



夏には水遊びをする子どもたちでいっぱいになるそうです。

流れの水は、ろ過装置による循環水を使用しています。



舟串橋（ふなくしばし）

昭和 33 年の狩野川台風で流され廃橋となっていました。が、いまは、趣のある橋として復元されています。

かつて、王子七滝のひとつといわれる「権現の滝（ごんげんのたき）」が、ここに再現され、流量は毎分 1 トンとゆたかです。



音無川上流方向には、貯水池があります。

公園の上を国道がまたいでいます。

